

記者発表（配付）資料

令和7年9月4日

所属部課	部長	館長	統括学芸員	担当	連絡先
萩市 商工観光部 萩博物館	藤原 章雄	大槻 洋二	道迫 真吾 伊藤 靖子	川原康寛	0838-25-6447

件名	萩博物館夏期特別展「絶滅動物展～未来へつなぐ生きものがたり～」 追加ワークショップのお知らせ
----	---

この夏開催している萩博物館特別展「絶滅動物展～未来へつなぐ生きものがたり～」では、展示と併せて多数のワークショップや展示会場内での「絵本づくり」等の企画を実施しており、好評を得ています。そこで、来館者からの「もっとワークショップを実施して欲しい」という要望にお応えして、今夏実施したワークショップのうち、人気であったプログラムを下記のとおり追加実施します。なお、「絶滅動物展」は9月21日（日）まで開催しています。

記

【企画名】オリジナル絶滅動物トートバッグぬりえ

【日時】令和7年9月7日（日）

午前の部 9:30～12:00 / 午後の部 13:00～16:00

※整理券配布は実施しません。直接、萩博物館講座室までお越しください。

【内容】展示に登場する絶滅動物（ドードー・ステラーカイギュウ・ニホンオオカミ）の線画がプリントされたトートバッグに、布用クレヨンを使って自由に着色していただきます。「ぬりえ」という作業を通じて、子供から大人まで、楽しみながら展示資料を観察できるワークショップとなっています。また、展示会場内でも、当企画と関連して、絶滅動物の絵に色をぬる「絵本づくり」を実施しています。

【場所】萩博物館 講座室・体験学習室

【料金】800円/セット

【定員】100人

【対象】どなたでも

【参加方法】講座室にて参加料をお支払いいただきます。

【コンセプト】絶滅動物のほとんどは標本すら残っていないものが多く、その色は想像で復元することしかできません。そこで、*STEAM 教育的な手法を取り入れ、アート（ぬりえ）を通して絶滅動物の姿や生息していた環境を考え、楽しみながら学習していただきます。

※STEAM 教育：「科学」（Science）、「技術」（Technology）、「工学」（Engineering）、「数学」（Mathematics）の4つの分野に対し、「芸術・リベラルアーツ」（Liberal Arts）」を介した横断的な学習のこと



画像（左）：着色前のトートバッグ例。参加者には、ドーダー（中央上）、ニホンオオカミ（左下）、ステラーカイギュウ（右下）の3種類から好きな絵柄を選んでいただきます。

画像（右）：布用クレヨンを使って着色したトートバッグの例。ドーダー（中央上）は小学1年生、ニホンオオカミ（左下）は大人、ステラーカイギュウ（右下）は1歳児によって着色された作品です。小さな子供から大人まで楽しく参加することが出来ます。

■夏期特別展「絶滅動物展～未来へつなぐ生きものがたり～」の概要

日本には、多種多様な動物たちが暮らしています。一方、そこに棲む多くの動物たちは近年の環境変化により絶滅の危機に瀕しています。本展は、すでに絶滅してしまった動物に加え、日本の絶滅危惧種も多数展示し、日本の生物多様性を学ぶとともに、「絶滅」というショッキングなワードが決して縁遠いものではないことを、約400点の展示資料や絵本づくり体験、ワークショップから体感していただける展示会です。

■今夏実施したワークショップ

・8月2日（土）オリジナル絶滅動物トートバッグぬりえ

当追加企画の元となったワークショップです。たくさんの方に参加いただき、学びを深めるだけでなく、展示観覧の思い出にもしていただきました。

・8月9日（土）絶滅動物のまゆ玉人形をつくろう

ステラーカイギュウやオオウミガラスなどの絶滅動物のまゆ玉人形を作成していただきました。絶滅動物だけでなく、工作を通じて萩市の養蚕業についても知っていただく機会となりました。

・8月20日（水）海の生きものをしらべて・つかって光る

ウニランタンをつくろう

海外産のラップウニの殻に萩産の貝殻を飾り付けて、鮮やかに光るウニランタンを作成しました。参加者には、このウニが地球温暖化によって分布拡大し、近年では萩近海でも見られるようになったことを解説しました。

